

2013年度事業計画

2013年度は、前年度の一連の創立50周年事業と公益財団法人化実現を終え、新たな半世紀への扉を開くスタートの年であり、演奏技術の向上はもとより、より健全で透明性の高い楽団運営が求められる。公益性という観点では、何よりもまず高いレベルの演奏を追求していくことに重点を置き、国内トップオーケストラとして、音楽文化の普及・発展のために一層力を入れていく。また、経営基盤の強化を図るため、フルオーケストラで年間約100回の公演数を維持し、サロンコンサートなどのアンサンブル演奏も含めて計約150回の公演を行うとともに、11年度、12年度と2年連続して達成している演奏収入5億円台を堅持する。

(1) 新たな半世紀を切り開く演奏活動

常任指揮者のカンプルラン、正指揮者の下野竜也は、いずれも12年度いっぱい契約期間満了を迎えるが、色彩感覚あふれる演奏が好評のカンプルランは、日本でも着実にファンを増やしており、引き続き常任指揮者2期目(13年4月～16年3月)に入る。6年半にわたって正指揮者を務めた下野は、13年度以降は「首席客演指揮者」(2年契約)に就任する。

演奏会の軸となるシリーズ公演は、従来の5シリーズから、13年度は7シリーズとなる。新たな音楽ファンの獲得を目指し、従来の「東京芸術劇場名曲シリーズ」に代わり、回数を絞って平日の夜に開催する「読響メトロポリタン・シリーズ」、演奏会になかなか足を運べない社会人や音楽初心者、学生らを狙った「読響カレッジ」、通常の演奏会のほか室内楽も一緒に楽しめる「東京オペラシティ・プレミアムシリーズ」が登場する。

各シリーズには、カンプルラン、下野のほか、名誉客演指揮者の尾高忠明、特別客演指揮者の小林研一郎、桂冠名誉指揮者のスクロヴァチェフスキら自慢の読響指揮者陣が登場するほか、ロシアの巨匠・テミルカーノフ、読響初登場となる古楽の巨匠・ヘレヴェッヘらが相次いで登場する。ソリストでは、ウィーン・フィルのコンサート・マスターを務めるヴァイオリンのシュトイデ、韓国の若手ヴァイオリニスト、パク・ヘユンらを迎える。

また、欧州を中心とした海外公演を14年度に行うため、12年度に引き続き「特定準備資金」の積み立てを続ける。読響が海外公演を行うのは02年度のオーストリア・ドイツ公演以来12年ぶりとなる。

(2) 社会貢献・地域貢献

公益財団法人移行を受けて、社会貢献、地域貢献等の取り組みに対して

は、さらに力を注ぐ。12年3月に福島県いわき市で行った「復興支援特別公演『きぼうの音楽会』」は、13年3月には宮城県名取市で2回目を開催。さらに14年3月は再びいわき市で開催することにしており、息の長い被災地支援を継続する。

音楽振興の一環として、音楽団体などが行うコンクールやフェスティバルへの後援名義の提供や「読響賞」の贈呈などに今後も積極的に取り組むことで、クラシック音楽のすそ野拡大に努める。

さらに、フルオーケストラとは異なる小規模のアンサンブル演奏にも取り組んでおり、各地で無料演奏を行う「サロンコンサート」、各地の病院を訪問して患者らを慰問する「ハートフルコンサート」、小中学生を対象に学校を訪問する「フレンドシップ・コンサート」などの開催には引き続き力を入れていく。

(3) 適正な業務運営

事務処理の合理化と透明性を高めるため、外部への業務委託を行う。チケットセンターについては、13年度の公演分から国内チケット販売大手の「ぴあ」に委託し、これまでの課題だった土日祝日の販売、ネットを通じた24時間販売などを可能にした。またシステム変更・開発などの費用も不要となる。さらに同社の媒体を通じての情報発信も売り上げ向上に寄与するものと期待している。楽団員、事務局職員の給与計算業務については、13年3月から一部を外部に業務委託した。

(4) 「よみうり大手町ホール」での演奏

2014年3月にオープンする読売新聞東京本社の新社屋ホール「よみうり大手町ホール」での公演実現のため、読売新聞社との間で詰めの協議を進める。座席数501で、ステージ規模にも限りがあるため、フルオーケストラによる大規模な演奏は困難であり、小規模編成のオーケストラによる演奏と、アンサンブル演奏とを組み合わせることを基本に調整を進めている。14年春のこけら落とし演奏会にも出演する予定。

(5) 南葵音楽文庫コレクションの保存および公開

1977年に寄付を受けた約2万点に上る楽譜や音楽関係図書の中には、著名作曲家の自筆楽譜なども含まれており、財団としては演奏活動と並ぶ公益事業に「南葵音楽文庫コレクションの保存および公開」を掲げている。12年度から3年計画で取り組んでいるカラー入力による高画質のデジタルデータ化については、引き続き作業を進める一方、ホームページでの公開について具体的な作業に入る。また、資料のより適切な保存、分類についても検討する。

事業計画一覧

I. 自主公演	72回
1. 定期演奏会	11回
2. 名曲シリーズ	11回
3. 東京芸術劇場マチネー	11回
4. みなとみらいホリデー名曲	8回
5. 読響カレッジ	8回
6. 東京芸術劇場メトロポリタン	6回
7. オペラシティプレミアム	5回
8. 特別演奏会	12回
(内訳)	
都区内特別	4回
地方特別	5回
サマーフェスティバル	2回
第九公演	1回
II. 依頼公演	25回
1. 東京都区内公演	18回
2. 地方公演	5回
3. テレビ出演	2回
I + II 小計	97回
III. その他公演	53回
1. ハートフルコンサート	6回
2. フレンドシップコンサート	7回
3. サロンコンサート	40回
合計	150回